

第2回総合戦略推進委員会

議事要旨

日時：令和元年7月19日（金）
午後6時30分～8時30分
会場：庁議室

次 第

- 1 開会
- 2 委員長あいさつ
- 3 議題
(1) 平成 30 年度総合戦略における具体的な施策の進捗状況報告及び評価（基本目標 2 及び 3）について
- 4 その他
- 5 閉会

出席者（敬称略）

委員長・・・松本祐一（多摩大学総合研究所）
副委員長・・・大塚一彦（立川公共職業安定所）
委員・・・水野宏一（昭島市商工会）、勝見真之（連合多摩中央地区協議会）、齋藤久未（J:COM東京 多摩局）、樽松洋（公募市民）、山内昭裕（公募市民）
事務局・・・萩原政策担当部長、青柳企画政策課長、滝瀬総合基本計画担当課長、薬袋産業活性課長、森田企画調整担当係長、田中主事

1. 開会

事務局・・・ 本日は、大変お忙しいところ、第2回の総合戦略の推進委員会に出席いただきありがとうございます。本日につきましては、説明員といたしまして薬袋産業活性課長が出席をいたしておりますので、よろしくお願いいたします。

2. 委員長あいさつ

第2回ということで、本日もお忙しい中、お集まりいただきましてありがとうございます。前回も皆さんに活発にご意見をいただきました。この委員会というのは、ある意味、評価というのも非常に大事なんですが、事業の進捗状況や結果の中から、こんな風に昭島が変わってきているとか、新しい動きが生まれそうだなとか、こんな風に人々の考え方とか、ある意味生き方が変わってきているとか類推しながら、どんな風な方向に徹していけば良いのか考える場でもあると思っています。非常に難しいかもしれませんが、ここに出ている資料の中身を見ながら、事業そのものだけではなく、市全体、我々の生活がどのように変わってきているか意識しながら議論できればと思っていますので、本日もよろしくお願いいたします。

早速、議題に入りたいと思いますが、北原委員がご欠席とご連絡をいただいておりますので、ご報告させていただきます。

3. 議題

(1) 平成30年度総合戦略における具体的な施策の進捗状況報告及び評価（基本目標2及び3）について

委員長・・・ 基本目標2について事務局より説明願います。

事務局・・・ それでは、基本目標2「昭島へ新しいひとの流れをつくる」について説明させていただきます。施策の「魅力ある都市基盤整備」のうち、20番「教育福祉総合センター整備」につきましては、第1回の委員会で説明をさせていただいたとおりです。21番「東中神駅周辺整備事業」東中神駅駅舎につきましては、平成29年度末に完成いたしました。地区人口の減少、及び立川基地跡地土地地区画整理事業の遅れに伴い、乗降客数も減少いたしました。今後の東中神駅周辺のまちづくりにつきましては、関係機関と協議・調整を行い、検討を進めてまいります。次に、22番「拝島駅周辺整備事業」です。こちらは、都市計画道路3・4・2号の整備につきましては平成29年度に完了し、今年度中に事業全体の完了を目指しております。KPIに設定しているJR拝島駅と西武拝島駅の乗降客数につきましては、1年前倒しで達成している状況です。

次に、施策の「観光推進」24番「観光まちづくり協会との連携・支援」でございます。観光案内所の利用者数につきましては、KPIには達しておりませんが、昨年度より増加している状況です。「あきしまの水」が飲める冷水機の設置やマンホールカードの配布など、様々なイベントの実施など、魅力ある案内所の運営に努めてまいります。改札出口付近の案内板で誘導、駅のホームから見える案内所裏側によりPRも継続していきます。次に、26番「自然散策（エコツーリズム）マップの作成」でございます。こちらのエコツーリズムマップにつきましては、環境基本計画に則った生物多様性地域戦略を基にして作成いたしますが、基となる生物多様性地域戦略の策定を今年度（令和元年度）から2ヵ年で策定することとなりましたので、今年度中のマップの作成は困難となりました。KPIにつきましては今年度100施設に設置としておりましたが、こちらについては再考が必要と思われます。

次に郷土伝統文化・郷土芸能・芸術の推進による集客のうち、28番「拝島日吉神社の榊祭ほか伝統行事と文化財等のPR」についてです。天候に恵まれ榊祭、例大祭共に盛大に開催されました。例大祭では三町の屋台に人形が立ち上げられ壮観でありました。この模様を2日間に渡りデジタル撮影し、「昭島市デジタルアーカイブズ あきしま水と記憶の物語」に動画として公開する予定でございます。現在は、予告編（短編）を公開している状況です。次に29番「伝統文化継承環境整備事業」になります。拝島町の電柱の高架化等を行いながら、日吉神社例大祭における本来の人形を立てての三町屋台の奉えいを復活させる取組です。本事業に係る関係企業との調整会議を毎月開催し、事業の着実な推進に努める中、当初の工法から変更せざるを得ない状況が発生しましたが、補正予算計上により対応し、令和元年9月に執り行われる例大祭での本来の人形屋台の奉えいお披露目に向け、順調に事業が進捗しております。次に30番「あきしまの文化財ガイド等市史料の刊行事業」でございます。平成29年度に刊行した「昭島消えた五つの鉄道」が順調な売れ行きで、29年度の2回の増版でも完売、30年度も500冊の増版をし、計2,500冊となりました。本年度は、新たに「昭島市近代史報告書VI 旧役場資料で見る「昭和」前半の昭島」を刊行いたしました。次に31番「アキシマク

ジラの化石レプリカ作成」でございます。こちらにつきましては、第1回の委員会で説明をさせていただいたとおりです。次に、32番「郷土芸能まつり」ですが、情緒豊かな伝統芸能とともに、多数の模擬店の出店もあり、市内外からたくさんの方々にご来場いただきました。昭島に人を呼び込むという目標が達成できたところでございます。次の33番「昭島市民くじら祭」でございます。こちらは、猛暑によりパレードが中止になったため、来場者数が減少いたしました。夢花火には、こちらでも市内外から多数の来場者があり、大変な盛り上がりを見せました。次に34番「芸術家三人展の開催」ですが、第11回開催を記念し「あきしま市内芸術家公募展」として開催し、芸術家30名、30点の作品を展示することにより、多くの方に来場していただき、芸術鑑賞の機会提供とともに、多くの芸術家の活動支援が図られました。また、市内小中学校の授業等で作成された作品につきましても芸術家未来の卵展という形で展示をして開催しており、集客効果が非常にあるものと捉えています。このように、内容の変更、また、合わせて会場の変更したことから、平成29年度においては、K P I 3,000人に対し7,705人、30年度は同じく3,000人に対し、6,774人となっています。K P Iにつきましては、上方修正を視野に入れて、委員の皆様のご意見を伺いたいと考えております。次に35番「昭和の森芸術文化振興会との連携」でございます。昨年度の委員会意見を踏まえ、今年度からK P Iを1,500人としております。市民ホール大ホールの定員は1,139人ですが、プログラムが三部構成のため、来場者の入れ替わりがあり、延べ1,800人の来場となりました。教育機関、近隣地域、海外交流団の3団体に出演・演奏していただき、多くの皆様に音楽を通して芸術文化の振興を図ることができました。次に36番「昭島市文化事業協会との連携並びに市民会館の利用促進」でございます。外壁改修工事及び屋上防水工事等により、閉館期間があったためにK P Iを下回っている状況です。また、工事は昨年度中に終了しており、今年度は例年通りの利用状況となっておりますので、K P I達成に向けて、文化事業協会との連携を深めてまいります。次に、37番「昭島ブランド構築・推進」でございます。商品開発の件数だけ見ますとK P Iの達成には至っておりませんが、これまでの取組の中で、開発商品がふるさと納税の返礼品メニューに搭載されるなど、一定の成果を挙げてきたところです。また、商品開発の次の段階として、ロゴマークのついた商品の販売や店頭でのP Rにより、あきしまの水ロゴマークの認知には一定の効果があるものと捉えております。今年度は、冊子『夢つなぎ人』の第5版を発行する予定となっており、この冊子では、これまでも、昭島の人びとの「水とともにある暮らしや思い」、「子どもや孫の世代に自然の恵みである美味しくてきれいな水を残す」といった夢を語っていただいております。また、あきしまの水ブランド構築・推進事業の5年間の事業の集大成として、水をテーマとした「動画コンテスト」を開催する予定となっており、あきしまの水ブランドのP Rにつきましては、今後も継続してまいります。次に38番「あきしまの水ペットボトルの作成」です。こちらは、29年度までの取組を継続し、各種イベントでの配布や小中学校帰宅困難者対策用、ふるさと納税返礼品用として配付したことで、30年度事業についても順調に進捗している状況です。次に39番「昭島ブランド・フードグランプリ」です。こちらにつきましては、前回の推進委員会において、産業まつりの部分で触れましたが、30年度をもって事業を終了いたします。今後は、産業まつりの会場内で、「昭島の誇りの詰まった逸品商品・製品・サービスの宣伝」となるイベントを行っていく予定となっており、昭島ブランドのP Rにつきましては、切り口を変えて今後も行っていくこととしており

ます。

次に、施策の「魅力発信の強化」のうち、40 番「公式キャラクターの活用」です。こちらは、庁内では使用申請が減少しましたが、外部団体からの使用申請は大幅に増加しました。また、30 年度には、アッキー&アイラングッツとして、ボールペンやピンバッジ等を作成し各種イベント等で配布し、PRを行っています。なお、今年度につきましては、水道部のキャラクターであった、「ちかっぱー」が、市の公式キャラクターに昇格いたします。すでに、ラグビーイベントをはじめとする各種イベントにおいて、着ぐるみのちかっぱーが活躍しておりますが、正式にはくじら祭の会場内でお披露目をする予定となっております。41 番「ふるさと納税の充実」でございます。こちらにつきましては、窓口での受付のほか、民間のふるさと納税サイトを活用して受付を行っています。返礼品につきましては、あきしまの水ペットボトルをはじめとして、市内企業の製品やサービスなどとなっており、現状、KPI を大きく上回っている状況です。なお、これまで、友好都市である岩泉町の特産品についても非常に人気のある返礼品としてメニューに載っておりましたが、本年6月以降は総務省の定めた基準に適合する必要があることから、念のため、一旦、返礼品メニューから除外している状況です。しかしながら、本年度におきましてもたくさんのご寄附をいただいている状況で、大変ありがたいことでございますが、特に、市外に引っ越された寄附者からのアンケートのなかで、「引越し先の水道水があまり美味しくなく、返礼品メニューに昭島の水ペットボトルを見つけた瞬間に飛びついてしまった」とのコメントをいただいたことは、大変嬉しく、改めて昭島の水を誇りに思わせてもらうきっかけとなりました。KPI につきましては、実績が大きく上回っていることから再考が必要と考えております。42 番「ロケーションサービスの支援」でございます。旧拝島第四小学校を中心とした市の施設や民間の施設など、市内のたくさんのスポットでロケが行われています。波及効果として、市内定食屋さんには、ロケ弁の注文が多く入っている状況のようです。次に 43 番「新たな広報活動の展開」です。積極的にツイートを行った結果、フォロワーが年々増加している状況です。目標の「令和元年度までに 2,500 人」につきましては、1 年前倒しで達成している状況となっており、令和2年度のKPIに合わせて、今年度よりKPIを上方修正することにつきまして、委員の皆様のご意見をいただきたいと思います。また、動画作成につきましては順調に進捗しており、KPI 達成に向け、今後も着実に取り組んでまいります。

説明は以上です。

委員長・・・盛りだくさんですが、中にはKPIを達成してしまっ、より高い目標に上方修正した方が良いのではないかと提案もありました。そういったところも含めて、ご意見、質問を受けたいと思います。ここは、昭島を知ってもらって、来てもらう、そういった面で、情報発信もそうですし、都市基盤を整備していくことも含めて、かなり広域な内容になっていますが、いかがでしょうか。

山内委員・・・20番なんですが、教育福祉総合センター内に郷土資料室を造るとありますが、どれくらいの規模になるのか。近隣の市を見ますと郷土資料館という建物もあって、建物と言っても、民芸品を並べて、ボランティアガイドが詰めている形のものもあるようです。中には、かなり充実していて、例えば東村山市では、軽便鉄道が昔あって、発掘して、企画展と説明資料を出している。軽便鉄道のことを知

りたければ、その説明資料が良くできている。青梅市では、歴史的なことを知ろうとすると、例えば青梅の新町の開発のことなどwebページに出てくる。普通は、市のホームページから飛ぶようになっているが、ポンと出てくるので非常に見やすい。

昭島市の郷土資料室については、どれくらいの規模を考えているのか、そこに学芸員の配置があるのかお聞きしたい。

事務局・・・ 施設の規模につきましては、資料を確認します。

既存の郷土資料室につきましては、旧の分室のところに、スペースは限られていますので、市民の方から寄贈いただいたものにつきましても、本来飾りたいものはあるのですが、展示スペース上、保管場所に置いてあるものもありますので、次の時には配置していく予定ではいます。

ホームページの見せ方につきましては、他団体のお話もいただきましたので、より見やすい、検索しやすいホームページの作りこみを、こういった形が良いか、担当部署にも検討願うようにお伝えさせていただきます。

樽松委員・・・ 拝島駅は完成しても人が増えていない感じがします。東中神駅は完成して増えているように思うんですが。参考に、昭島駅がどれくらいかお聞きしたいのですが。

事務局・・・ 拝島駅の部分につきましては、都市計画道路3・4・2号は29年度に完了しまして、駅前のロータリーも含めて一定の事業の進捗は終わったところです。今年度は、駅から降りて福生側に行く道の整備が残ってしまっていて、そこが終わると完了します。

委員おっしゃるとおり、駅前の整備が進んでも乗降客の部分では大きな変化がないというところで、その分析までは進んでいないところではあるんですが、駅前の整備が直接、駅の利用に結びつくかと言うのが1点と、駅を利用される方の居住者の増加にも要因があるのかなと思っておりまして、そういったところでは、拝島駅を利用される部分では大きな開発、人口増の部分ではここ数年で大きな変化がないところもございますので、直接、乗降客のところには跳ね返ってきていないのかなと捉えているところはございます。

山内委員・・・ 拝島駅の関連で内容のところで、ぶらぶら歩きが心地よいまち拝島をコンセプトにと書いてありますが、ぶらぶら歩きはどの辺をイメージしているのか、私の考えでは、ぶらぶら歩きをするのは玉川上水の両側の遊歩道かなと思うんですが、両側に遊歩道はありますし、ぶらぶら歩きするには良いのかなと思うんですが、下流に行くと交番にぶつかって、脇に公園があるんですが、薄暗くて人が入っていない。玉川上水をぶらぶら歩きするならば、入りやすい公園にして、休んでいただくとか必要があるんじゃないかなと思うんですが。

事務局・・・ ご質問いただいているコンセプトのところは、拝島駅南口の周辺整備にあたってのコンセプトになっていますので、駅を降りたところに南口商店街がございしますので、そのあたりをイメージしてのコンセプトになります。

山内委員・・・ 23番（都市計画道路3・4・1号）なんですが、着工してから何年ぐらい経ってい

ますか。

事務局・・・ 用地買収からスタートしますので、それなりの年数は経っています。何年からというのは今すぐに出ないのですが。

山内委員・・・ 最終的に完成するのが、令和9年度。私の印象ではあまりにもかかり過ぎている印象なんです。

事務局・・・ 八高線をくぐってアンダーの部分は、JRとの協議もありまして、一番時間のかかるところです。八王子で同じような工事を予定しているところがございます。同じ期間で工事を進めることはできないので、そのあたりもあって、工期を設定しています。

それと、先程、昭島駅の乗降客のお話をいただきました。29年度が最新の数字になってしまいますが、29年度、52,622人となっています。28年度は52,636人、27年度は52,806人となっています。5万2千台で推移しています。

齋藤委員・・・ 東中神駅周辺の整備事業は、目標値までまだ大分大変な印象です。具体的な人と呼ぶ施策は予定されていないと、達成できないと思うんですが、何か施策はありますか。

事務局・・・ 東中神駅の部分につきましては、一番大きな要素は北側の立川基地跡地の開発の部分が、土地所有者の協議等が予定より少し遅れている状況にあります。開発が一定程度進むと、相当数の居住者が増えるとの予定でもございます。そういったところを見据える中で、ある程度、乗降客については、増えていくだろうと見込んでいます。

齋藤委員・・・ 遅れているので、何か工夫をするのか、目標値を変えとかじゃないと、目標達成できませんので終わってしまうので、当初の予定とずれているのであれば合わせるのか、何か人を呼び込む施策があるのか。

事務局・・・ 法務省の施設の中に、極東アジアの研修所などが出来ている中で、一定数増えている状況にはあるんですが、具体的な数字増には至っていない状況にあります。現状を説明させていただいた中で、ご意見を伺い、今のところ、大きく増を見込めるようなものは難しいと思っております。

政策担当部長・・・ 医療更生施設ですとか、30年度の後半に施設の一部が開設されましたが、全ての職員が配置されていないとも伺っておりますので、31年度は、法務省関連施設の職員さんですとか見学に来られる方の乗降客は見込めるのかなと思います。将来的には、一定の商業施設を整備していく、線路北側と南側の回遊性も高めていくので、そこでの利用者数の増が見込め、また、昭和記念公園の昭島口があるのですが、あそこの一体整備につきましても、URや国の機関と協議を重ねているところです。その辺に手がついて、緑と一体となったわかりやすい入口になれば、東中神からのアクセスは良いので、そこは改善するのかなと思います。

政策担当部長・・・ 先程の郷土資料室の関係なんです、常設展示と企画展示で入れ替わりがで

きるような形で考えてございます。調整中のところもありますが、学芸員の配置も想定しながらの方向性ももっています。

あわせて、デジタルアーカイブで昭島の郷土資料を紹介できるようなミニシアターも併設されますので、活用しながら、具体的な活動につながっていくのかなと捉えています。

委員長・・・ 今回の基本目標は、昭島に新しい人たちに来てもらうのが大きな目標で、今言ったような、昭島はいくつも駅があって、一番立川側の東中神駅周辺の開発がされていて、また、市西側の拝島駅周辺が開発されている。地域的に特徴があるところで、開発が行われているという状況と、どういうコンテンツで人を呼ぼうかとなると、事業を見ていただくと伝統文化、水、芸術みたいな要素もあって、産業という側面もあるかもしれません。内容を見ると地域的なつながりがあるのか無いのか、拝島の方面だと伝統文化とか、市の方ではその辺を意識して組み合わせているのか、その辺は考えずにやってらっしゃるのか、意図的に地域のブランディングをPRしているのか、方針はどうですか。

政策担当部長・・・ 昭島市、市域は狭いのですが、地域地域でそれぞれ特徴があって、委員長からお話しあったとおり、拝島のところは本村というところになりますので、昔からの伝統、文化が伝承されてきた地域であります。日吉神社の人形屋台の復活につきましても、伝統文化継承関連整備事業としまして進めてまいりました。一方で、昭島駅の北側につきましては、昭和飛行機さん関係の商業施設が中心となってきますが、ここも人を集める、新しい昭島の魅力なのかなと思っております。東中神につきましては、立川から続く昭和記念公園を共有しながら、立川昭島で人が回遊するような、意図的な部分をふまえながらまちづくりを進める必要があると考えています。また、昭島駅の北側につきましては、栗田工業さんのラグビー部の練習場も出来ていますので、今後は、ラグビーを中心としたスポーツの普及啓発も兼ねながら、人を呼び込んでいきたいと考えています。

山内委員・・・ 昭島駅の北側は、個人的にはすごい良い施設が出来てると思っています。アウトドアのお店が並んでいたり、クライミングがあったり、若い人が昭島駅の北側に集まる施設が多いなと期待しているんですが、ただ、観光案内所があるんですが、狭い、いろいろな物が置いてあって、本当は5、6人の人が座って昭島の水でも飲めるスペースでもあれば良いなと思います。お金の関係もあると思いますが、せっかく北側に商業施設が揃っているので、観光案内所を充実していただくと良いんじゃないかなと感じます。いろいろ工夫はされているようですが、何しろ階段の下で目立たない、入口を工夫するとか、何か工夫が必要ではないか。それと関連して、駅のコンコースや駅前に観光マップの看板は出ていますか。

産業活性課長・・・ コンコースなどには置いていません。置けないという状況です。

山内委員・・・ 北口、南口それぞれ出たところにもありませんか。駅を降りたところに、バス乗り場とかの手前にでっかい看板、観光マップがありますよね。

産業活性課長・・・ 観光の案内板はないです。

山内委員・・・ あまり意味がないんですかね。

産業活性課長・・・ 観光マップを作っていますので、観光マップを持ちながら、観光をしていただいている。

山内委員・・・ 看板があると、駅を降りた人たちが昭島ってこんなところがあるんだなと宣伝になると思うんですね。それで、紙製のマップを持って歩いてみようとなると思うんですが。紙製のマップは観光案内所に行かないと無いですよ。

産業活性課長・・・ あとは、ホームページに掲載してありますので、ダウンロードしていただいています。

山内委員・・・ 駅を乗り降りする人が昭島の観光に目を通していただく工夫が必要かなと思います。

勝見委員・・・ 観光マップは今年度、作成していて、来年度の作成は。

産業活性課長・・・ 昨年度、作成させていただいて、日本語版と英語版になります。今年度は、違った外国語版を作成します。

勝見委員・・・ 新しい形では、今年度も来年度も出す予定はない。

産業活性課長・・・ 昨年度、新しくさせていただいているので、来年度、新しくする予定はありません。

勝見委員・・・ 立川の観光案内所には、昭島の観光マップは無いので。

産業活性課長・・・ 持ち込みをさせていただいています。無くなると補充させていただいています。

勝見委員・・・ 行くと無いので、あまり切らさない方が良いのかなと。

勝見委員・・・ 公式キャラクターの活用なんですけど、以前、ご当地ナンバーでキャラクターを使う話を伺ったのですが、予定はないのですか。

事務局・・・ 現在、ご当地ナンバーの作成に取り組んでいます。来年度には出来ると思います。

勝見委員・・・ 軽と原付ですか。

政策担当部長・・・ 原付のみとなります。

山内委員・・・ 内容の方に、昭島の指定文化財という本と昭島市の社寺と石造遺物の2冊の本を合本して刊行すると書いてあって、250人とあるのですが、その本は刊行したのですか。

事務局・・・ 計画自体には、合わせて作るとありますので、既に作り終わっているかは確認させていただきます。

山内委員・・・ 目標値は、合本が目標値なのか、消えた五つの鉄道が目標値なのか。

事務局・・・ 目標自体は、昭島市近代史調査報告書等の市史料を刊行するということで、合本したものの購入を250人となっています。

山内委員・・・ 合本と報告書Ⅵを合わせて250ということですか。細かい内容と違うようですが。

事務局・・・ この目標を設定したときに、昭島の指定文化財という本と昭島市の社寺と石造遺物の2冊の本を合本して刊行するというのが、基本的には想定の中にあって、設定をしているんですが、これで終わりということではなく、定期的に市史料を作成してございますので、そういったものを含めて購入者数は250人となっています。

山内委員・・・ フードグランプリは30年に終了しますということですが、31年度の目標値が3万人となっていますが、終了するのならば、終了で目標値を削った方が良いのでは。

政策担当部長・・・ 終了する部分については、前回の会議でご説明をさせていただいたとおりの内容で一定の役割を果たしたと、今後は、それに引き続いての別の事業を展開していくということです。ただ、委員が言われたとおり、31年度の目標値そのまま記載はどうなのかなという部分がありますので、報告書の中で、どういう理由でこの事業は終了し、こういった形でやっていきますと記載したいと思います。

山内委員・・・ 市民会館の利用促進とありますが、具体的にどういったことをやって利用者を増やすのかがわからない。

事務局・・・ 36の内容のところに市民会館を中心拠点とする芸術活動を充実させというところが1つありますので、委員がおっしゃったどんな内容のものを実施しているのか、わかりやすく記載をした方が良いのかなと思っています。

齋藤委員・・・ 先程、観光マップが切れているとお話がありましたが、何施設に置いたかが目標値になっているので、配布して持って行ってもらった数を目標にした方が管理もできるし、どれだけはけたかで人が使ってくれたかわかるので、そういう指標の方が良いのかなと思います。施設を見ても、置いたところを増やしましたということで、既に目標の100施設達成しているので、発行部数と使用部数にしていく方が良いのかなと思います。

政策担当部長・・・ 今のご意見を踏まえながら、担当課とどこまで書き込みができるかを調整させていただきます。先程の立川の観光案内所の部分なんですが、各市から一定数設置し、不足すると案内所の担当者から各市に連絡して、すぐに設置する連絡体制でやっていきますので、ただ、昭島市が総数どれだけ持っていて、どれだけはけて

いるのか、昭島が人気があって持ってかかれているのか、各市の状況等も分かれば比較として出せば良いかなと思います。

委員長・・・ ご指摘のとおりで、K P I が施設数よりも実際にはけた数を設定した方が、より実態に近いというのと、逆に、評価を受けるK P I になるのではないかなと思います。K P I の表現の仕方で損をしてはもったいないので、いい意味での変更もあるかなと思います。

それに関連しますが、K P I を達成していて目標を高めたほうが良いのでは、上方修正した方が良いのではという内容についてご意見をいただきたい。

具体的に言うと、34番の昭島市内芸術家公募展、41番ふるさと納税、43番のフォロワー数ですね。これについて、達成していてかなり超えている数値になっているところで、いい意味でK P I の目標を高くすることについてはいかがでしょうか。

水野委員・・・ 34番の芸術家三人展につきましては、芸術文化振興会さん、昭和飛行機さんの中に設置されている会なんですけど、先日も萩原部長、青柳課長と一緒に委員として参加してまいりました。111回を数える協議会となっておりまして、事務局もかなり熱を入れていて、熱心に取り組まれているところでございます。その協議会には市内の6団体とか、様々な分野の委員さんが参加されておりまして、この数値というのは、そういった人たちのお力添えもあって、広く広まっているのだなと実感しております。そういう意味からも、この芸術家三人展については、ますます発展性もあることから、K P I の仕様については、上方修正するのがよろしいのではないかなと思います。

樽松委員・・・ ふるさと納税は減っていくのではないかなと思っているのですが、あまりやらない方が良いのではないかな。

政策担当部長・・・ 確かに問題になっている部分、高額の返礼品とか3割以上を超えてという部分で、そうした自治体においては、指定から外れているので、ふるさと納税は出来なくなります。逆に本来の趣旨である、自分の故郷に、寄付文化という形にしていこうと言うことで、そういった方向に流れてくるのかなという部分も一つの要素として踏まえています。この先行きは、今後の動向を見ていかないと何とも言えないところでございます。ただ1点、昭島市の場合は、これまで昭島市の方から、各企業のところで作られているものを、返礼品にどうですかというところから、今年に入って、企業側から、こういったものを作っているのでは是非、返礼品に入れてもらえないかということで、市内のものづくり企業さんからも商品の提案がされる現状にあります。こうした点も踏まえ、地域を挙げての寄付文化の醸成に努めているところもありますので、目標を高めに設定しても支障はないかなと思っています。

齋藤委員・・・ 地元企業との連携が進んでいるのであれば、高い目標を設定する方が良いのかなと感じます。

水野委員・・・ 今の件でいくと、実績は今後も上昇していく可能性がある。そこに参加されている、当会の会員企業もかなり参加されていると思いますが、どれくらい企業さ

んが参加されていますか。登録企業を増やしていくお考えはありますか。

政策担当部長・・・市としては、市内企業のブランド力もPRしていきたいと考えています。市側からも積極的に声をかけて増やしていきたいなと思っているところです。当然、選択肢が増えれば、寄付者からすれば魅力も高まっていくのかなというところも当然ありますし、さとふるのホームページ上で出た時にも昭島市の企業さんの名前も出てくるというところで、良い傾向に行くのではないかなと思っています。

事務局・・・返礼品の名称しかないので、同一の企業があるかもしれませんが、15位の企業さんは載っています。それ以外に、あきしまの水ですとかございます。

委員長・・・どれも良い話ではあるので、少し上方修正するというのは、もちろんどれ位上げていくかは、いろいろ状況を見てだと思しますので、数までは我々の方で判断できないかもしれませんので、そこは担当部署にきちんとヒアリングしていただいて整理して上方修正するというので、よろしいんじゃないんでしょうか。

私からの提案ですが、良い部分での修正は、報告書において少しKPIを大きく、達成出来ていることについては、特別に記載した方が良いのでは、返礼品の話も、地元企業との連携という意味では非常に良い内容なので、ちゃんと記載をして、ここは良くできていると記載していただきたい。

政策担当部長・・・いただいた意見も踏まえながら、報告書の中での形で、次回の会議でお示ししたいなと思っています。

委員長・・・目標3もいろいろと内容がたくさんありますので、次に移りたいと思います。

事務局・・・結婚活動支援につきまして、「まちコンの開催」のにつきましては、前回、目標1で説明させていただいたとおりです。次の、妊娠・出産・育児の切れ目ない支援のうちの、44番「妊婦健康管理支援」ですが、こちらの事業につきましては、産院に協力を得て待合室等に参加者募集チラシを貼って周知したところ、参加者数は前年を上回ることができましたが、KPI達成には依然困難な状況にあります。また、平日就労している妊婦も多いことから、令和元年度につきましては、土日休日の開催とし、かつ、単発での参加も可能となるよう変更することにより、参加者の増員を図ってまいります。なお、こちらの事業につきましては、50番の「親子健康運動教室」とセットで事業委託しているものですが、他課でも同様の事業を実施していることから、両事業とも令和元年度をもって終了することとなっております。今後は、妊娠期から子育て期にわたる産前・産後事業へと移行し、支援を要する産前・産後のサポート事業の充実を図ってまいります。従いまして、両事業とも、令和2年度のKPIにつきましては、設定をしないこととしたいと思っております。次の47番「多子出産お祝い事業」でございます。こちらは、30年度の実績の欄、「465人」となっており、目標を達成している状況でございますけれども、前回の推進委員会でお示しをした「基本目標における数値目標の達成度」においては、「468人」と記載をいたしました、「465人」が正しい数値ですので、修正をお願いしたいと思います。次の48番「多子世帯保育所等利用負担軽減補助」は、保育施設の整備等により、利用者数は減少しましたが、利用者負担補助によ

り対象事業の利用がしやすくなり、待機児童の対策にも効果があったものと考えています。次の49番「子育てハンドブックの作成」です。こちらは、当初、30年度に全面改訂を行う予定としていたことから、前年の29年度までに10,000部の配布を行うとしてKPIを設定しておりました。しかしながら、その後、子育て関連の部署が教育福祉総合センターに移転することとなり、その移転時期である令和元年度末に合わせてハンドブックの全面改訂を行うこととしたために、作成時期が一年間延伸となっております。これらのことから、30年度においては、改訂前のハンドブックの残数の配布に止まり、500部の配布となっております。改訂版のハンドブックの配布につきましては、令和2年度より本格化することになるかと思っておりますので、KPIにつきましては再考が必要と考えます。次の50番「親子健康運動教室」、こちらは、先程44番でご説明をいたしました、本事業は令和元年度をもって終了いたします。なお、30年度につきましては、申込者数は目標値を上回る360組以上ありましたが、当日の体調不良等で欠席者が出たため、目標は達成できませんでした。令和元年度は1コースの定員数は変更せず、6回コースを3回コースにし、多くの親子が参加しやすい事業に変更してまいります。次に、56番「保育所入所待機児童数の解消」です。こちらは、子ども・子育て支援事業計画に基づき、認可保育所の新設・改築等により388名の定員増を図りましたが、新たな開発に伴う子育て世帯の転入や就労形態の多様化などによる保育需要の増加により、待機児童解消には至りませんでした。今後、見込まれる保育需要への対応につきましては、既存園の改築及び立川基地跡地周辺地区への新園設置等について方向性を定めた、今後5年間の施設整備計画に基づき解消に努めてまいります。次に、61番の「実費徴収に係る補足給付事業」です。生活保護・非課税世帯を対象に教育・保育に必要な日用品、学用品、行事参加費等の費用の一部を保護者に補助し、保護者が支払う実費負担額の軽減を図っています。目標値と実績が乖離していますが、令和元年度より給食費への補足給付の需要が見込まれることや、今後予定されている幼児教育・保育の無償化に関する国の動向等が不透明であったため、KPIの数値につきましては据え置くこととしたいと思っています。次の62番「学童クラブ待機児童の解消」です。KPIの欄において、30年度待機児童は12人となっておりますが、8月末には解消しており、現在待機児童は0人となっております。次のページの施策「地縁を生かした子育て支援と子どもの健全育成」です。63番「地域子育て支援拠点事業（子育て広場）」でございます。こちらは、乳幼児とその保護者が気軽に集える身近な場所として活用されております。事業内容を冊子や通信、ホームページ等で周知をすることにより、子育て世代の親子が気軽に遊びに行けるようになり、利用者数が大幅に増加したものであると考えています。また、情報公開の推進により、各施設での実施内容にも創意工夫がなされ、事業の充実が図られました。KPIにつきましては令和2年度48,500人を想定しており、令和元年度から上方修正するかにつきましては委員の皆様からのご意見をいただければと思います。次の64番「児童センターの充実」です。こちらは、猛暑の中の空調設備の故障や台風などの悪天候、また、放課後子ども教室や学童クラブの充実などにより、目標に届かなかったものと考えます。特に、平成28年5月に青少年交流センターが開設したことにより、児童センターにおけるダンス教室等の団体利用者につきましては減少しておりますが、一方で、青少年交流センターの利用者につきましては年々増加傾向にあり、30年度は1万人を超える利用があるなど、「子どもたちの居場所をつくる」という市全体での取組につきましては順調に進捗しているものと捉えております。今後とも、運営

委員会及び委託先と協議し、施設の利用者の増加についての手法を検討してまいります。次の70番「昭島市リーダーズクラブの育成」でございます。こちらにつきましては、上段の小学生リーダーの講習会参加者数はK P I を達成しているものの、中段の中学生リーダーの講習会参加者数、下段のリーダーズクラブの会員数につきましては、K P I を下回っている状況となっています。なお、達成していない中学生リーダー事業及びリーダーズクラブ事業の見直しは当然のことながら、達成している小学生リーダー事業においても、その裾野を広げていく取組が必要であると捉えております。

説明は以上でございます。

委員長・・・ こちらも、達成していないもの、大幅に達成しているものいろいろありますが、皆さんの方から、質問、ご意見をいただければと思います。

山内委員・・・ 目標の設定のところで、子育て世代包括支援センターの開設の年間相談者数となっていますが、30年度の実績で151人と載っているのですが、151件は再プランを立てた151件だと思うんですね、だから目標設定は相談者数なのか、支援プラン策定者数なのか、それから、68番の小学校に地区委員会を設置する部分が、全ての小学校に地区委員会がされているということで、目標は達成済みで良いじゃないでしょうか。

事務局・・・ 51番の子育て世代包括支援センターの開設の目標値につきましては、年間相談者数、委員のおっしゃるとおりなんですけど、年間相談者数は全ての妊婦に1回相談をしています。その後、再相談、実際に相談が必要だった方が再プランを立てた方の件数になりますので、年間相談者数は実際に相談が必要だった方についての数字ということで、再プランを立てた件数と記載しております。

山内委員・・・ 年間相談者数が5,256件と書いてありますので、年間相談者数となると、こちらかなと思うんですが。

事務局・・・ おっしゃるとおり、わかりにくい表現となっておりますので、そのあたりにつきましては、表現を工夫してまとめたいと思います。

樽松委員・・・ 44番の妊婦健康管理支援は、目標に対して実績が低いですが、単発にすれば増員が図れると考えてよろしいのでしょうか。

事務局・・・ 委員おっしゃるとおり、なかなか参加者が増えない中、開催の曜日がネックになっているのと、ずっと出てくる負担が利用者の方からあるというところで、今年度につきましては、曜日の変更ですとか、単発で参加できる形に変更をしたところがございます。そういったところで、一定程度、参加者も増えると思込んでいます。

樽松委員・・・ 妊婦さんだと、集団で何かやるよりも個人的な相談をした方が良いんじゃないかと気がするんですが。

政策担当部長・・・ 確かに、委員おっしゃるところもあろうかと思います。妊婦健康管理支援の事

業は、妊婦さんを対象としていますので、日常から離れて、ひと時でもリラックスしていただきたいなど、ホテルの会場を借りまして実施してきた事業であります。他の講座の類よりもグレードアップした形で妊婦さんに受けていただこうというところだったんですが、なかなか曜日の関係など課題もあり、参加者の増加のところでは目標値を下回ってしまった。ただ、参加者の中では、横のネットワークが構築されるなど別の効果が生まれているところは評価したいなど、事務方としては思っているところです。健康課における事業で、5年間の期間の中でやっておりますので、一定の検証を行う中で、別事業へ展開をしていきたいと主管課からは伺っております。

樽松委員・・・ 良いことなのに何で来ないんだろうと思うんですね。

委員長・・・ 先程、飛ばしてしまいましたが、68番の地区委員会は、設置をされれば変わることは無いことでしょうか。設置されれば、次の年に減ることは無いということでしょうか。

事務局・・・ はい。

樽松委員・・・ 学童クラブの待機児童数ですが、文章からすると、実績をゼロにしていっているんですが。

政策担当部長・・・ 委員おっしゃるとおり、時点の押さえ方がおかしいと思いますので、相対的な評価資料と合わせてもう一度確認させていただきます。

山内委員・・・ 男女共同参画講演会と企業管理者向けのワーク・ライフ・バランス講演会の開催の関係なんですけど、あえて分けなくても良い感じがするのですが。

政策担当部長・・・ 男女共同参画講演会のところで、テーマをそれぞれ交互に設定を変えていたのですが、今は合わせてやっているところなので、山内委員おっしゃられるとおり、一本にしても良いのかなと思いますので記述の仕方は工夫をさせていただきたいと思います。

山内委員・・・ ワーク・ライフ・バランス優良企業認定制度は、令和2年度までに2社となっていて、現在、何社ありますか。

政策担当部長・・・ 現在は、制度が開始されていけませんので、昭島市独自はゼロです。こちらは、男女共同参画プランに位置づけた事業で、ワーク・ライフ・バランスの中心を担う事業として表記させていただいたんですが、他市の状況を見ますと、先行して取り組んだところも、現状として停滞しているところもありますので、今後、昭島市として、どのような取組ができるのか、産業活性課とも各市の状況等も調査しながら、今後につながるような形で進めていきたいと思っております。一方で、東京都としても制度を進めておりますので、その動向を見ながら、一自治体で行うのが良いのか、東京都全体としてやっていくのが良いのか、見極めも必要なのかなとも思っております。

委員長・・・今年度もスタートするかはわからない状況ですか。

政策担当部長・・・厳しい状況ではあります。男女共同参画プランの中での目標年度が31年度までになっていますので、そちらでの意見も伺いながら、今後、どういう取り扱いをしていくか、これは、厳しい状況にあります。

山内委員・・・国や東京都からの指示はありますか。

政策担当部長・・・東京都や国から、やらなければいけないという部分ではございませんので、昭島市としては、10年前の計画で、男女共同参画プランを策定した時点での事業として、施策展開していますので、ここ数年来、講演会と合わせて、こういったものが、必要か、企業経営者とか管理職等、参加いただく中でアンケートを取っているところではあります。そうしたなかで、必要性は感じているところではあります。先程、言ったとおり、各自治体でやっていくのが良いのか、東京都としても制度はやっていますので、幅広いところでやっていくのが良いのか、検討の余地があるのかとは考えております。10年間の振り返りの部分ではないのですが、課題が山積しているところではあります。

山内委員・・・リーダーズクラブなんです、小学生はともかくとして、中学生になってリーダーズクラブのような活動が必要があるのか、必要ないのかなという感じがするのですが。

勝見委員・・・リーダーズクラブは、地域の子どもを育てるのに非常に有効な手段なので、ここはもう少し力を入れてやっていくべきと思っています。中学生、高校生、大学生になっても、縦のつながりができるので、中学生、高校生が小学生を見るところで縦のつながりは有効なので、ご理解いただきたい。

委員長・・・現場は現場で工夫をされていると思いますが、なかなか数字には表れていない。うまくいっている自治体があれば、参考に出来るといいかもしれません。

勝見委員・・・中学生につながっていない問題点は主管課は把握されているんですかね。

政策担当部長・・・主管課としては、把握していると思いますので、確認させていただいて、次回までにご報告したいと思います。

委員長・・・この目標にも、KPI自体の設定をどうするか、子育て世代包括支援センターの開設の相談者数、目標値からかなり上回った状態で来ていて、このまま行くのかと言うところと、ご指摘があったとおり、基本的には全員とお会いするのが基本で、そのうえで、さらに相談が必要な方の数と言うことになっている。普通ですと、全員と会うだけでもすごいと感じてしまうんですが、さらに、もう一回会う方の数が、目標にすべき数字なのか。1回会って、問題があってもう一度会わなければいけない数が、場合によっては、少なくとも良いような気もするんですね。再相談を目標値に掲げるのは、言い方は悪いですが、必要ないけどもう一度やりましょうという動機づけになってしまうのでは意味がないなと感じます。

政策担当部長・・・ 確かに、再プラン策定者と言うのは、何らかの子育てに問題がある方に支援と言う形になりますので、逆に言うと、1回の相談で問題が解決して、ゼロになるのが良い環境になるのではと思います。その辺も踏まえながら、目標値、あと数年しかありませんが、年間相談者数の取り扱いが良いのか、設定値につきまして、主管課と考え方を確認して事務方で預からせていただいて、次回にご提示させていただきます。

齋藤委員・・・ 再プランを立てた人を、最後までサポート出来ましたと言うのが大事だと思うんですね。それがわかるような目標の設定になると、ただ、難しいですよね、その年で何人いるかも分からないですし、出来たかの判断も難しいと思うんですが、ずっと、その人をサポート出来ましたよと言う目標になると良いのかなと思います。

委員長・・・ 継続支援で3回目、4回目があって、齋藤委員がおっしゃるとおりで、解決するまで面倒を見たことが本当の意味での成果と言う捉え方も出来ると、数じゃないかもしれませんが、解決率がKPIであった方が良いのかもしれませんが。ここは、所管とも話をさせていただいて、ここまでこの数字できていますので、あらためて、報告書やここでの記載の仕方を工夫していただいた方が、皆さんからも先程あった、違和感があるというか、分かりづらい数値になっているのかなと思います。

63番、支援拠点事業は、毎年、目標値を上げてとあって、それを上回る数になっているところで、これを令和2年度も上げていくのか、どうするのかというところですが。

水野委員・・・ 場を提供するというのは、場が増えているから実績が増えているのか、具体的にどのようなところで場が提供されていて実際に増えているのかお分かりになりますか。

政策担当部長・・・ 直近で開設したのは、旧堀向保育園のスペースを使って、拠点事業を29年度に整備して、30年度から行っています。おそらく、ここの数字の部分は、子ども子育て支援事業計画の中で、5年間の計画ですが、それぞれ年度で拠点を増やすと、年度ごとの目標値、利用者数を掲げているので、そちらのプランと合わせていかないといけないところがございます。特にここの部分につきましては、昭島市としても力を入れているところで、そちらの計画でも広げていく、充実をさせていく方向性でありますので、書き込みと合わせて包含させていただきます。教育福祉総合センターの既存校舎棟の中にも、拠点を整備していく予定でいます。

勝見委員・・・ 68番の青少年とともに歩む地区委員会、子供会への支援のところですが、地区委員会の設置が13地区なんですが、子供会の設置はどれくらいなのかと、子供会自体の取組内容を教えていただきたい。

事務局・・・ 子供会の数と役割については、確認をさせていただきます。

委員長・・・ この基本目標3のところは、特に重要視されているのは、切れ目のない子育て支援と言うことで、生まれてから育っていく中で、きちっとサポート出来ている

かと言うところなんです、先程、お話が合ったような44番、50番が廃止になってしまう事業があって、切れ目のない事業が出来なくなってしまうことはいけないと思うんですが、これをどのようにしてつないでいくかということはいかがですか。

政策担当部長・・・ 44番、50番は他課で総合戦略で目標に掲げていない事業もございますので、廃止する事業につきましては、報告書の中で、どうした理由で廃止するのか、これに代わる事業が行われているのか、説明は丁寧にしていきたいなと思います。

齋藤委員・・・ 66番の放課後子ども教室で、目標値が2,505人で実績が3,009人で、登録者とその時の利用者は違うのかもしれませんが、これだけ受け入れられるんですか。

事務局・・・ 委員おっしゃられたとおり、参加は全ての方が同時に参加されるのではなく、登録者数です。この方たちがそれぞれの学校において放課後子ども教室に参加をしているとなっていますので、もちろん各学校で人数は違いますが、十分対応できるような体制を取りながら実施をしてございます。

齋藤委員・・・ 受け入れるだけ、目標値を上げて良いのではという気がします。

事務局・・・ 委員さんのご指摘を踏まえまして、具体性を持った目標として掲げられるか、担当課に確認させていただきます。

委員長・・・ 67番の青少年フェスティバルは、かなりの来場者数があって、それなりの若年者が来ているのではと思うんですが、ある程度の青少年の層が、市政に興味を持って参加されているのか、その辺はどうなのでしょう。単純にイベントを楽しみに来ているのでしょうか。

政策担当部長・・・ 委員長おっしゃられたとおり、イベントとして参加される来場者数としては、そういった方がメインになっていると思います。実行委員会は高校生を中心に企画運営していただいているので、OBの方たちが、そういった視点で来られる方もいらっしゃると思いますが、実際の活動として、活動をする子どもたちを集めるのも厳しい状況にあります。当然、そういった子どもたち、中学生リーダー等の連携も十分に視野に入れながら働きかけもしているんですが、そちらも厳しい状況にあります。

4. その他

事務局・・・ 次回の日程について、第3回の委員会につきましては、8月22日（木）、時間は本日と同じ18時30分から庁議室でお願いしたいと思います。第3回におきましては、項目4について、また、今日までご説明させていただいた内容の報告書の案について、ご提示をさせていただきまして、委員の皆さまにご意見をいただければと思っております。

5. 閉会

委員長・・・ 以上をもって、第2回総合戦略推進委員会を閉会します。